

# ポリオ

# 不活化ワクチン承認へ

## 厚労省 秋から無料接種

厚生労働省の医薬品第2部会は19日、フランスのワクチンメーカー、サノフィパスツールの日本法人が申請していたポリオ（小児まひ）単独の不活化ワクチン「イモバックスポリオ」の製造販売を承認してよいとする意見をまとめた。厚労省は「すみやかに正式承認する」としている。

予防接種法に基づき、乳幼児は秋以降、接種費用が原則、公費負担され、無料で受けられる見通し。生きたポリオウイルスによる

生ワクチンが使われてきた1960年代以降で不活化ポリオワクチン承認は初となる。現行の生ワクチンと異なり、まひの副作用

がなく、保護者らが早期導入を求めていた。この製品は海外で約30年の使用実績もあることから、2月下旬の申請後、異例の早さで承認

認が内定した。

ポリオの不活化ワクチンは、ほかに2社がジフテリア、百日せき、破傷風との4種混合ワクチンとして申請。審査が進んでいる。

厚労省は、秋に生ワクチンから不活化ワクチンへ全面的に切り替える方針。専門家の検討会で、接種開始時期

### クリック

不活化ワクチン ウイルスなど病原体をホルマリンなどで処理して不活性化したワクチン。免疫をつくるのに必要な成分は含まれていない。一方、生ワクチンは病原性を弱めたもの

の、生きた菌やウイルスでつくられているため、病気にかかったときとほぼ同じ仕組みで強い免疫ができるが、ごくまれに病気と同じ症状が出る可能性がある。不活化ワクチンではその恐れがなく、日本脳炎やインフルエンザにも使われている。

や、移行期に当たる乳幼児への対応策を議論している。

まひは生じないが、注射する必要がある。イモバックスポリオは通常、4回接種する。

生ワクチンは弱毒化したポリオウイルスでできている。口から飲むが、ごくまれに手足にまひを生じ、生涯残る場合がある。不活化ワクチンはウイルスを化学処理しているため

まひへの不安などから、生ワクチンの接種控えが広がっていた。神奈川県では独自に未承認の不活化ワクチンを輸入して希望者に有料接種している。